### 1. プログラム名称

杏林大学医学部付属病院 総合診療専門医研修プログラム

### 2. 専攻医定員

1年あたり(8)名 (×研修期間年数=総定員 24名)原則1学年あたり2名とするが、増員を希望する場合はプログラム申請書Aの別紙5に理由と共に定員希望数を記載すること。

## 3. プログラムの期間

( 4 ) 年間

### 4. 概要

#### A. プログラムを展開する場や医療施設の地域背景や特長

高度先進医療機関である大学病院では通常、内科は臓器別に細分化されており、診断が困難な患者さん、あるいは難治な疾患の治療にシフトし、また救急科は心肺停止や多発外傷などの 3 次救急に特化した診療を行っており、上記基本理念の2 に適していない場合が少なくありません。

しかし杏林大学医学部付属病院は、東京都の新宿以西における唯一の大学病院本院として、1970年の開学時から1次~3次の区別なくあらゆる救急患者さんを受け入れ、救急科が3次救急患者を、各科が1・2次救急患者を協力して診療に当たって来た歴史があります。さらに当院は、2006年5月に北米型ER 救急を実践するべく救急初期診療チーム Advanced Triage Team (ATT)を発足させ、内科系救急患者への初期対応を一元化して行ってきました。ATT は2012年には独立した診療科 (ATT 科)となり、初期研修医、後期レジデント、および大学院生の指導体制が整備されています。さらに、2012年に新しい第3病棟がオープンしてその1階に新High Care Unit (HCU)が開設されたことを契機に、短期間の入院診療も可能となりました。2016年4月から救急総合診療科と名称変更し現在に至ります。

# B. プログラムの理念、全体的な研修目標

当科は、発足以来、ER(北米)型救急で活躍出来るホスピタリストの養成を行ってきました。本研修 PGでは、当科以外の ER(北米)型救急を実践している専門研修連携施設や、先駆けてホスピタリストを導入している専門研修連携施設においても研修を行うことで、他の総合診療専門医プログラムと比較しても、より急性期に強い総合診療専門医の育成を目指すのが本研修 PGの特徴です。

当科は医学部付属病院内にあるため、医学部学生や初期臨床研修医、薬剤師、レジデント等を対象とした教育に携わる機会も多く、教育を通じた多くの学びの場が存在します。本研修 PG では、院内各専門科の医師やコメディカルスタッフ、周辺の各地域医療機関の協力のもと、様々な医療現場で、細やかなフィードバックを受けながら研修できる環境を整えていることも特徴です。

# C. 研修期間を通じて行われる勉強会・カンファレンス等の教育機会

(例) 定期的な TV 会議システムによるカンファレンス・経験省察研修録(ポートフォリオ)勉強会や作成指導等 ハーフデイバックカンファレンス・M&M カンファレンス・症例検討会・症候別レクチャーシリーズ・EBM ジャーナルクラブ・消化器カンファレンス・放射線科カンファレンス・循環器カンファレンス・感染症カンファレンス・ポートフォリオ勉強会や作成指導等・国内外での学会発表とその指導・症例報告の作成とその指導・蘇生講習会

# D. ローテーションのスケジュールと期間

(4年以上のプログラムの場合は、枠を増やして4年目以降のローテーションについても記載すること)

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
	総診Ⅱ											
1 年目		杏林大学病院										
		(救急総合診療科)										
						内	科					
2 年目	練馬光が丘病院					<b>佼成病院</b>						
	総診I											
3 年目	連携施設											
	(へき地医療機関:檜原診療所)											
		小児科			総診 I		j	選択研修	<b>E</b>		救急	
4 年目	杏	林大学病	<b>対院</b>	都區	内連携加	拖設	杏林大学病院   杏		杏木	林大学病	院	
	(	(小児科	)		(在宅)		(整形:	外科•外	·科等)	(救急科	or救急総合	診療科)

- ※「総診 I」、「総診 I」、「内科」、「小児科」、「救急」、「その他」という表記で記入してください。
- ※ 代表的な例を書いてください。募集定員全員のローテーション表は不要です。

総合診療		専門研修 I	総合診療専門研修 II		
専門研修		)カ月	(12) カ月		
領域別	内科	小児科	救急科	その他	
研修	(12) カ月	(3) カ月	(6) カ月	(3) カ月	

%ローテーションする施設によって研修期間が異なる場合(例えば、総合診療専門研修 I が A 診療所なら 6 ヶ月、B 診療所なら 9 ヶ月など)、これらの表はコピー&ペーストして複数作成すること

# 5. 準備が必要な研修項目

### 地域での健康増進活動

実施予定場所 (新川すみれクリニック )

実施予定の活動(新川すみれクリニックと通じて近隣の企業の産業医、近隣の学校の校医と連携し、予防接種の施行、

実施予定時期 ※どのローテーション中に実施するか

健康管理、ストレスチェック、運動指導などを行います。)

(総合診療専門研修])

### 教育(学生、研修医、専門職に対するもの)

実施予定場所 (杏林大学救急総合診療科)

実施予定の活動(毎月第4日曜日に開催される救急蘇生講習会において学生・研修医・コメディカルに対して指導を行います。)

実施予定時期 ※どのローテーション中に実施するか

(総合診療専門研修 II)

### 研究

実施予定場所 (杏林大学救急総合診療科)

実施予定の活動(杏林大学医学部総合医療学教室と連携し、救急外来トリアージの研究、シュミレーション教育の研究、

一過性意識障害の研究などの既存の研究に協力し、学会発表や論文投稿を行います。)

実施予定時期 ※どのローテーション中に実施するか

(総合診療専門研修 II)

### 6. 専攻医の評価方法(各項目を満たすとき、口を塗りつぶす(■のように))

※形成的評価と総括的評価を研修修了認定の方法も含めて具体的に記入してください。

### 形成的評価

- ■研修手帳の記録及び定期的な指導医との振り返りセッションを定期的に実施する(頻度:
- ■最良作品型ポートフォリオ作成の支援を通じた指導を行う(頻度: )
- ■作成した最良作品型ポートフォリオの発表会を行う(頻度: 参加者の範囲: )
- ■実際の業務に基づいた評価 (Workplace-based assessment) を定期的に実施する (頻度: )
- ■多職種による360度評価を各ローテーション終了時等、適宜実施する
- ■年に複数回、他の専攻医との間で相互評価セッションを実施する
- ■ローテート研修における生活面も含めた各種サポートや学習の一貫性を担保するために専攻医にメンターを配置し定期 的に支援するメンタリングシステムを構築する
- ■メンタリングセッションは数ヶ月に一度程度を保証する

## 総括的評価

- ■総合診療専門研修 I・IIの研修終了時には、研修手帳に専攻医が記載した経験目標に対する自己評価の確認と到達度に対する評価を総合診療専門研修指導医が実施する。
- ■内科ローテート研修において、症例登録・評価のため、内科領域で運用する専攻医登録評価システム(Web 版研修手帳)による登録と評価を行う。研修終了時には病歴要約評価を含め、技術・技能評価、専攻医の全体評価結果を内科指導医が確認し、総合診療プログラムの統括責任者に報告する。
- ■3ヶ月の小児科の研修終了時には、小児科の研修内容に関連した評価を小児科の指導医が実施する
- ■6ヶ月の救急科の研修終了時には、救急科の研修内容に関連した評価を救急科の指導医が実施する
- ■以下の基準でプログラム統括責任者はプログラム全体の修了評価を実施する
  - (1) 研修期間を満了し、かつ認定された研修施設で総合診療専門研修 I および II 各 6 ヶ月以上・合計 18 ヶ月以上、内科研修 6 ヶ月以上、小児科研修 3 ヶ月以上、救急科研修 6 ヶ月以上を行っており、それぞれの指導医から修了に足る評価が得られている
  - (2) 専攻医自身による自己評価と省察の記録、作成した最良作品型ポートフォリオを通じて、到達目標がカリキュラムに定められた基準に到達している
  - (3) 研修手帳に記録された経験目標が全てカリキュラムに定められた基準に到達している なお、研修期間中複数回実施される、医師・看護師・事務員等の多職種による360度評価(コミュニケーション、 チームワーク、公益に資する職業規範)の結果も重視する

研修修了認定の方法 (総括的評価結果の判断の仕方・修了認定に関わるメンバー)	
修了判定会議のメンバー	
■研修プログラム管理委員会と同一 □その他(	)
修了判定会議の時期(	)
	,
7. プログラムの質の向上・維持の方法	
<u>研修プログラム管理委員会</u> 委員会の開催場所(杏林大学医学部付属病院)	
委員会の開催時期(半年に1度開催を予定している)	
専攻医からの個々の指導医に対する評価	
評価の時期(9月・3月)	
評価の頻度(半年に1度)	
評価結果の利用法(個別と組織にそれぞれフィードバックし、教育体制の向上に務める)	
研修プログラムに対する評価	
評価の時期(9月・3月)	
評価の頻度(半年に1度)	
評価結果の利用法(指導医と組織にそれぞれフィードバックし、教育体制の向上に務める)	
8. 専門研修施設群	
基幹施設の施設要件(各項目を満たすとき、□を塗りつぶす(■のように))	
□総合診療専門研修Ⅰの施設基準を満たしている。	
□総合診療専門研修Ⅱの施設基準を満たしている。 ■大学病院で研修全体の統括組織としての役割を果たしている、あるいは適切な病院群を形成している施設で	である。
	- W · W ·
研修施設群全体の要件。 ■総合診療専門研修 I として、のベ外来患者数 400 名以上/月、のべ訪問診療件数 20 件以上/月である。	
■総合診療専門研修 I として、のベ外末患者数 400 名以エノ月、のへ訪问診療性数 20 件以エノ月である。 ■総合診療専門研修 II として、のベ外来患者数 200 名/月以上、入院患者総数 20 名以上/月である。	
■小児科研修として、のベ外来患者数 400 名以上/月である。	
■救急科研修として、救急による搬送等の件数が 1000 件以上/年である。	
地域医療・地域連携への対応	
■へき地・離島、被災地、医療資源の乏しい地域での研修が1年以上である。 具体的に記載:	
共体的に記載: 施設名(檜原診療所) 市町村名(檜原村) 研修科目(総合診療専門研修 I )	
研修期間 (12 か月)	
□基幹施設がへき地※に所在している。 □へき地※での研修期間が2年以上である。	
具体的に記載:	
施設名( ) 市町村名( ) 研修科目( ) 研修期間( か月)	
施設名 ( ) 市町村名 ( ) 研修科目 ( ) 研修期間 ( か月) 施設名 ( ) 市町村名 ( ) 研修科目 ( ) 研修期間 ( か月)	
※過疎地域自立推進特別措置法に定める過疎地域。詳細は総務省ホームページ参照 http://www.soumu.go.jp/main sosiki/jichi gyousei/c-gyousei/2001/kaso/kasomain0.htm	
http://www.soumu.go.jp/main_sosik/jieni_gyouse//2001/kaso/kasomaino.htm	

9. 基幹施設			
研修施設名	杏林大学医学部付属病院		
所在地	住所 〒181-8611 東京都三鷹市新川 6-20-2		
	電話 0422-47-5511 FAX 0422-44-0636		
	E-mail tmatsuda@ks.kyorin-u.ac.jp		

)

プログラム統括責任者氏名	松田剛明	指導医登録番号
プログラム統括責任者 部署・役職	救急総合診療科 診療科長	
事務担当者氏名	相馬希	
連絡担当者連絡先	住所 〒181-8611 電話 0422-47-5511 FAX E-mail info@kyorin-er.jp	0422-44-0636
基幹施設のカテゴリー	□総合診療専門研修 I の施設 □総	合診療専門研修Ⅱの施設 ■大学病院

施設要件(各項目を満たすとき、□を塗りつぶす(■のように))

- ■総合診療以外の 18 基本診療領域の基幹施設機能を、本プログラム統括責任者が所属する診療科あるいは部門では担当していない(プログラム基幹施設の役割を診療科・部門が兼任していない)
- ■本プログラム以外の総合診療専門研修プログラムを本基幹施設は運営していない
- ■プログラム統括責任者が常勤で勤務し、コーディネーターとしての役目を十分果たせるように時間的・経済的な配慮が 十分なされている
- ■専門研修施設群内での研修情報等の共有が円滑に行われる環境(例えば TV 会議システム等)が整備されている
- ■プログラム運営を支援する事務の体制が整備されている
- ■研修に必要な図書や雑誌、インターネット環境が整備されている
  - ※研修用の図書冊数( ※研修用の雑誌冊数(
  - ※専攻医が利用できる文献検索や二次資料の名称(
  - ※インターネット環境
    - ■LAN 接続のある端末
    - ■ワイヤレス
- ■自施設で臨床研究を実施したり、大学等の研究機関と連携した研究ネットワークに加わったりするなど研究活動が活発に行われている

具体例(杏林大学医学部総合医療学教室と連携し、臨床研究を行っている。)

10. 連携施設	
連携施設名	東京ベイ・浦安市川医療センター
所在地	住所 〒279-0001 浦安市当代島 3-4-32 電話 047-351-3101 FAX 047-352-6237 E-mail fwhs0754@mb. infoweb. ne. jp
連携施設担当者氏名	舩越 拓
連携施設担当者 部署・役職	救急集中治療科 救急外来部門 部長
事務担当者氏名	尾形 智美
連絡担当者連絡先	住所 〒279-0001 浦安市当代島 3-4-32 電話 047-351-3101 FAX 047-352-6237 E-mail tokyobay-kenshu-jimu@jadecom. info
連携施設の所在地	二次医療圏名 (東葛南部保健医療圏 ) 都道府県の定めるへき地 (8. 研修施設群参照)の指定地域である →□はい ■いいえ
連携施設名	独立行政法人労働者健康安全機構 関東労災病院
所在地	住所 〒211-8510 川崎市中原区木月住吉町 1-1 電話 044-411-3131 FAX 044-433-3150 E-mail <u>rkonishi@kantoh.rofuku.go.jp</u>
連携施設担当者氏名	小西 竜太
連携施設担当者 部署・役職	救急総合診療科 部長
事務担当者氏名	大浦 範雄
連絡担当者連絡先	住所 〒211-8510 川崎市中原区木月住吉町 1-1 電話 044-411-3131 FAX 044-433-3150

	E-mail n-ooura@kantoh.jphas.go.jp
	二次医療圈名 ( 川崎南部医療圏 )
	都道府県の定めるへき地(8. 研修施設群参照)の指定地域である   →□はい ■いいえ
連携施設名	公益社団法人地域医療振興協会 練馬光が丘病院
————————————————————— 所在地	住所 〒179-0072 練馬区光が丘 2-11-1
	電話 03-3979-3611 FAX 03-3979-3787
	E-mail makmitsusada@v7.itscom.net
連携施設担当者氏名	光定誠
連携施設担当者の部署・役職	副病院長
事務担当者氏名	江口 智恵子
連絡担当者連絡先	住所 〒179-0072 練馬区光が丘 2-11-1
	電話 03-3979-3611 FAX 03-3979-3787   E-mail chiekoe@jadecom.jp
	二次医療圈名(東京都西北医療圏)
	都道府県の定めるへき地(8. 研修施設群参照)の指定地域である →□はい ■いいえ
連携施設名	立正佼成会附属佼成病院
所在地	住所 〒166-0012 東京都杉並区和田2丁目25-1
THE PER SECTION OF THE PER SECTI	電話 03-3383-1281 FAX 044-433-3150
	E-mail shin@ks.kyorin-u.ac.jp
連携施設担当者氏名	高橋信一
連携施設担当者 部署・役職	内科部長
事務担当者氏名	藤田 修弘
連絡担当者連絡先	住所 〒166-0012 東京都杉並区和田2丁目25-1
	電話 03-3383-1281 FAX
	E-mail nobuhiro@kosei-hp.or.jp  二次医療圏名( )
足乃他以びが仕地	都道府県の定めるへき地(8. 研修施設群参照)の指定地域である →□はい ■いいえ
連携施設名	済生会中央病院
所在地	住所 〒108-0073 東京都港区三田 1 丁目 4-1 7
	電話 03-3451-8211 FAX 03-5444-3590
連携施設担当者氏名	E-mail
	足立 英智
連携施設担当者の部署・役職	部長
事務担当者氏名	竹田 修 
連絡担当者連絡先	住所 〒108-0073 東京都港区三田 1 丁目 4-1 7
	電話 03-3451-8211 FAX 03-5444-3590
	E-mail kkc@saichu.jp  二次医療圏名( )
連携施設の所在地	ーベ区場回石 ( 都道府県の定めるへき地 (8. 研修施設群参照) の指定地域である →□はい ■いいえ
連携施設名	檜原診療所
所在地	住所 〒190-0200 東京都西多摩郡檜原村2717
	電話 042-598-0115 FAX
本権体訊和火老の名	E-mail
連携施設担当者氏名	田原邦朗
連携施設担当者 部署・役職	院長

事務担当者氏名	
連絡担当者連絡先	住所 〒190-0200 東京都西多摩郡檜原村2717 電話 042-598-0115 FAX E-mail
連携施設の所在地	二次医療圏名 ( ) 都道府県の定めるへき地 (8. 研修施設群参照) の指定地域である →■はい □いいえ
連携施設名	三宅村国民健康保険直営中央診療所
所在地	住所 〒100-1101 東京都三宅村 三宅島 三宅村神着937 電話 04994-2-0016 FAX E-mail
連携施設担当者氏名	三ツ橋佑哉
連携施設担当者 部署・役職	院長
事務担当者氏名	
連絡担当者連絡先	住所 〒100-1101 東京都三宅村 三宅島 三宅村神着937 電話 04994-2-0016 FAX E-mail
連携施設の所在地	二次医療圏名() 都道府県の定めるへき地(8. 研修施設群参照)の指定地域である →■はい □いいえ
連携施設名	新島村国民健康保険本村診療所
所在地	住所 〒100-0402 東京都新島村本村 4-10-3 電話 04992-5-0083 FAX E-mail
連携施設担当者氏名	張耀明
連携施設担当者の部署・役職	診療所長
事務担当者氏名	
連絡担当者連絡先	住所 〒100-0402 東京都新島村本村 4-10-3 電話 04992-5-0083 FAX E-mail
連携施設の所在地	二次医療圏名 ( ) 都道府県の定めるへき地 (8. 研修施設群参照)の指定地域である →■はい □いいえ
連携施設名	小笠原村診療所
所在地	住所 〒100-2101 東京都小笠原村父島清瀬 電話 04998-2-3800 FAX E-mail
連携施設担当者氏名	亀﨑 真
連携施設担当者 部署・役職	診療所長
事務担当者氏名	
連絡担当者連絡先	住所 〒100-2101 東京都小笠原村父島清瀬 電話 04998-2-3800 FAX E-mail
連携施設の所在地	二次医療圏名 ( ) 都道府県の定めるへき地 (8. 研修施設群参照) の指定地域である →■はい □いいえ
連携施設名	奥多摩町国民健康保険 奥多摩病院
所在地	住所 〒198-0212 東京都西多摩郡奥多摩町氷川 1 1 1 1 奥多摩町国民健康保
連携施設担当者氏名	井上大輔
連携施設担当者の部署・役職	院長

事務担当者氏名	
連絡担当者連絡先	住所 〒198-0212 東京都西多摩郡奥多摩町氷川 1 1 1 1 奥多摩町国民健康保
連携施設の所在地	二次医療圏名 ( ) 都道府県の定めるへき地 (8. 研修施設群参照) の指定地域である →■はい □いいえ
連携施設名	新川すみれクリニック
所在地	住所 〒181-0004 東京都三鷹市新川6丁目8-10 電話 0422-26-5655 FAX E-mail
連携施設担当者氏名	松田朝子
連携施設担当者 部署・役職	院長
事務担当者氏名	
連絡担当者連絡先	住所 〒181-0004 東京都三鷹市新川6丁目8-10 電話 0422-26-5655 FAX E-mail
連携施設の所在地	二次医療圏名 ( ) 都道府県の定めるへき地 (8. 研修施設群参照) の指定地域である →□はい ■いいえ
連携施設名	さつきクリニック
所在地	住所 〒181-0004 東京都三鷹市新川6丁目8-1 O 電話 : ( 042 ) 359 - 4197 FAX : ( 042 ) 359 - 4197 E-mail yoko1205@ybb.ne.jp
連携施設担当者氏名	高橋 聡
連携施設担当者の部署・役職	院長
事務担当者氏名	
連絡担当者連絡先	住所 〒181-0004 東京都三鷹市新川6丁目8-10 電話 : ( 042 ) 359 - 4197 FAX : ( 042 ) 359 - 4197 E-mail yoko1205@ybb.ne.jp
連携施設の所在地	E-mail yoko1205@ybb.ne.jp  二次医療圏名(  都道府県の定めるへき地(8. 研修施設群参照)の指定地域である →□はい ■いいえ

# 総合診療専門研修 I

### 総合診療専門研修Ⅰの施設一覧

都道府県 コード	医療機関 コード	へき地・離島、被災地 (該当する場合はチェック)	施設名	基幹施設・ 連携施設の別	
13	0326462	■へき地·離島 □被災地	三宅村国民健康保険直営中央診療所	□基幹 ■連携	
13	0326926	■へき地·離島 □被災地	新島村国民健康保険本村診療所	□基幹 ■連携	
13	0336917	■へき地·離島 □被災地	小笠原村診療所	□基幹 ■連携	
13	2414555	■へき地·離島 □被災地	奥多摩町国民健康保険 奥多摩病院	□基幹 ■連携	
13	3624509	□へき地・離島 □被災地	新川すみれクリニック	□基幹 ■連携	
13	3123015	□へき地・離島 □被災地	さつきクリニック	□基幹 ■連携	
13	2421998	■へき地·離島 □被災地	檜原診療所	□基幹 ■連携	

研修施設名	三宅村国民健康保険直営中央診療所						
診療科名	(内科)	( 内科 )					
	※病院で研修を行う場合、研修を行う主たる診療科を記載してください。						
	■診療所  □病院						
施設情報	   施設が病院のとき → 病院病床数	( )床 診療科病	s床数 ( 12 )床				
総合診療専門研修Iにおける研修期間							
常勤の認定指導医の配置の有無	■配置あり □配置なし						
	常勤指導医なしの場合						
	□ 都道府県の定めるへき地(8. 研修	疹施設群参照)の指定地	域である				
	その場合のサポート体制(						
			)				
研修期間の分割	■なし □あり 「分割あり」の場合、研修期間の分割について (	.具体的に記入して下さい	)				
 常勤指導医氏名 1	長谷川 勇太	指導医登録番号	( )				
		指導医登録番号	( )				
常勤指導医氏名3		指導医登録番号	( )				
要件(各項目の全てを満たすとき、口を							
研修の内容							
<ul><li>■外来診療:生活習慣病、患者教育、心</li><li>■訪問診療:在宅ケア、介護施設との連</li></ul>							
■地域包括ケア:学校医、地域保健活動	などに参加						
施設要件 後期高齢者診療	45021						
■研修診療科において後期高齢者の診療	を受け入れている						
学童期以下の診療(以下のうち一つを選							
□研修診療科において学童期以下の患者 ■学童期以下の患者は受け入れていない		科外来が存在し、それ	ちらで経験を補完する				
口学童期以下の患者は受け入れていない	が、近隣の施設において経験を補完		` ·				
□ 具体的に、どの施設でどのような頻度 □ □ 学童期以下の患者は受け入れておらず		ることができない	)				
経験を補完できない理由(	C ZEPP DEBX = 000 C TEXT C THIS D	0-27 (200	)				
学童期以下の患者の診療を経験するた	めの工夫						
(		)					
■アクセスの担保:24 時間体制で医療機		をとっている					
具体的な体制と方略(平日時間外、土		)					
■継続的なケア:一定の患者に対して研   具体的な体制と方略( 外来診療、入院		)					
■包括的なケア:一施設で急性期、慢性		<u>/</u> を幅広く担当					
具体的な体制と方略 ( 救急診療、外	来・入院診療に加え、訪問診療も行	っている。 )					
■多様なサービスとの連携:必要な医療 具体的な体制と方略( 緊急時は都内		連携する					
	■家族志向型ケア:様々な年齢層を含む同一家族の構成員が受診する 具体的な状況( 島唯一の診療所であるため、家族で受診される。 )						
□地域志向型ケア:受診していない地域 具体的な内容と方法(	住民への集団アプローチを計画的に	実施する	)				
■在宅医療:訪問診療の体制をとってい	る。患者の急変、緩和ケアに対応し	ている	,				
それぞれの概ねの頻度( 診療実績(各項目を満たすとき、口を塗	りつぶす (■のように))		)				
■のベ外来患者数 400名以上/月							
□上記の要件を満たさないが、他施設との連携で工夫している 具体的な体制と方略()							
天体的な体制を力略(			)				

■のべ訪問診療数 20 件以上/月							
口上記の要件を満たさないが、他施設との連携で工夫している							
具体的な体制と方略(							
研修中に定期的に行う教育							
当該施設で行う勉強会・カンファレンス ( 常勤医師が2名おり、適宜カンファ 他の施設で行う教育・研修機会 (	・カルテチェック等の教育機会 レンス、カルテチェックを行ってい <sup>。</sup>	<b>3</b> 。)		)			
他のプログラムに参加される場合は以下	の欄を記載すること						
本プログラム以外の参加プログラム数 プログラム名( プログラム名( プログラム名(	( ) ) ) )						
TR 16-16-20. 52							
研修施設名	新島村国民健康保険本村診療所						
診療科名							
	※病院で研修を行う場合、研修を行う主たる	診療科を記載してください	0				
施設情報	■診療所  □病院						
	施設が病院のとき → 病院病床数	( )床 診療科病	i床数 ( 8 ) i	末			
総合診療専門研修Ⅰにおける研修期間	( 12 )カ月						
常勤の認定指導医の配置の有無	│ ■配置あり   口配置なし   常勤指導医なしの場合						
	-	施設群参照)の指定地	域である				
	その場合のサポート体制(						
				)			
研修期間の分割	■なし 口あり 「分割あり」の場合、研修期間の分割について (	具体的に記入して下さい		)			
常勤指導医氏名 1	鈴木 亮士	指導医登録番号	(	)			
常勤指導医氏名 2		指導医登録番号	(	)			
常勤指導医氏名 3		指導医登録番号	(	)			
要件(各項目の全てを満たすとき、口を	塗りつぶす (■のように))						
研修の内容 ■外来診療:生活習慣病、患者教育、心 ■訪問診療:在宅ケア、介護施設との連 ■地域包括ケア:学校医、地域保健活動	携などを経験し在宅緩和ケアにも従						
施設要件 後期高齢者診療 ■研修診療科において後期高齢者の診療	を受け入れている						
学童期以下の診療(以下のうちーつを選   □研修診療科において学童期以下の患者							
■学童期以下の患者は受け入れていない	が、施設内に研修診療科以外に小児		ららで経験を補完	きする			
<ul><li>□学童期以下の患者は受け入れていない 具体的に、どの施設でどのような頻度</li></ul>		する		)			
□学童期以下の患者は受け入れておらず 経験を補完できない理由(		ることができない		)			
学童期以下の患者の診療を経験するた	めの工夫						
(		)					
■アクセスの担保・24時間体制で医療機	経関が患者の健康問題に対応する体制	<u>を</u> とっている					

	が除し、中国の同グログラの成文と的が大順
具体的な体制と方略 ( 平日時間外、土	日祝日も専用電話を設置し対応。 )
■継続的なケア:一定の患者に対して研	<b>修期間中の継続的な診療を提供する</b>
具体的な体制と方略 ( 外来診療、入院	診療を行っている(入院8床)。 )
■包括的なケア:一施設で急性期、慢性	期、予防・健康増進、緩和ケアなどを幅広く担当
	来・入院診療に加え、訪問診療も行っている。 )
	機関、介護・福祉機関などと適切に連携する
具体的な体制と方略( 緊急時は都内	
■家族志向型ケア:様々な年齢層を含む	
具体的な状況(島唯一の診療所であ	
	住民への集団アプローチを計画的に実施する
具体的な内容と方法(	) 7 中央の名本 (河内につにおけしていて
l	る。患者の急変、緩和ケアに対応している
それぞれの概ねの頻度(	)
診療実績(各項目を満たすとき、口を塗	りつぶす (■のように))
■のベ外来患者数 400 名以上/月	
□上記の要件を満たさないが、他施設と	の連携で工夫している
具体的な体制と方略(	)
■のべ訪問診療数 20 件以上/月	
   □上記の要件を満たさないが、他施設と(	の連携で工夫している
具体的な体制と方略(	
共体17な体型と万幅(	
研修中に定期的に行う教育	
当該施設で行う勉強会・カンファレンス	・カルテチェック等の教育機会
│ 、 │ 他の施設で行う教育・研修機会	,
(	)
他のプログラムに参加される場合は以下(	の欄を記載すること
本プログラム以外の参加プログラム数	( )
プログラム名(	· , , , , , , , , , , , , , , , , , , ,
プログラム名(	)
プログラム名(	)
L	
研修施設名	小笠原村診療所
אַם טון פֿין וען בער בער	√1.77 <sup>[N]</sup> √1 1 IS NY [N]

研修施設名	小笠原村診療所			
診療科名	( 内科 )			
	※病院で研修を行う場合、研修を行う主たる	診療科を記載してください	N <sub>o</sub>	
施設情報	■診療所  □病院			
が記されて	施設が病院のとき → 病院病床数 ( )床 診療科病床数 ( 9 )床			
総合診療専門研修Iにおける研修期間	( 12 )カ月			
常勤の認定指導医の配置の有無	■配置あり □配置なし 常勤指導医なしの場合			
	□ 都道府県の定めるへき地 (8. 研修施設群参照) の指定地域である			
	その場合のサポート体制(			
				)
研修期間の分割	■なし □あり 「分割あり」の場合、研修期間の分割について	□ 具体的に記入して下さい		
	(	X(  -   -    -		)
常勤指導医氏名 1	田中 靖士	指導医登録番号	(	)
常勤指導医氏名 2		指導医登録番号	(	)
常勤指導医氏名 3		指導医登録番号	(	)
要件(各項目の全てを満たすとき、口を	塗りつぶす (■のように))			
研修の内容				

■外来診療:生活習慣病、患者教育、心理社会的問題、認知症を含めた高齢者ケアなど	
■外来診療:生活質慎病、思有教育、心理社会的問題、認知症を含めた高齢有グアなど ■訪問診療:在宅ケア、介護施設との連携などを経験し在宅緩和ケアにも従事	
■地域包括ケア:学校医、地域保健活動などに参加	
施設要件	
後期高齢者診療	
■研修診療科において後期高齢者の診療を受け入れている	
学童期以下の診療(以下のうち一つを選ぶ)	
□研修診療科において学童期以下の患者の診療を受け入れている	
■学童期以下の患者は受け入れていないが、施設内に研修診療科以外に小児科外来が存在し、そちらで経験を補乳	記する
□学童期以下の患者は受け入れていないが、近隣の施設において経験を補完する	
具体的に、どの施設でどのような頻度で補完するか(	)
□学童期以下の患者は受け入れておらず、近隣の施設において経験を補完することができない	,
経験を補完できない理由(	)
学童期以下の患者の診療を経験するための工夫	,
■アクセスの担保:24時間体制で医療機関が患者の健康問題に対応する体制をとっている	
具体的な体制と方略( 平日時間外、土日祝日も専用電話を設置し対応。 )	
■継続的なケア:一定の患者に対して研修期間中の継続的な診療を提供する	
具体的な体制と方略 (外来診療、入院診療を行っている(入院9床)。)	
■包括的なケア:一施設で急性期、慢性期、予防・健康増進、緩和ケアなどを幅広く担当	
具体的な体制と方略( 救急診療、外来・入院診療に加え、訪問診療も行っている。 )	
■多様なサービスとの連携:必要な医療機関、介護・福祉機関などと適切に連携する	
具体的な体制と方略( 緊急時は都内か千葉県へへリで搬送。 )	
■家族志向型ケア:様々な年齢層を含む同一家族の構成員が受診する	
具体的な状況( 島唯一の診療所であるため、家族で受診される。 )	
□地域志向型ケア:受診していない地域住民への集団アプローチを計画的に実施する	
具体的な内容と方法(	)
■在宅医療:訪問診療の体制をとっている。患者の急変、緩和ケアに対応している	
それぞれの概ねの頻度(	)
診療実績(各項目を満たすとき、□を塗りつぶす(■のように))	
■のベ外来患者数 400 名以上/月	
口上記の要件を満たさないが、他施設との連携で工夫している	,
具体的な体制と方略(	)
■のべ訪問診療数 20 件以上/月	
口上記の要件を満たさないが、他施設との連携で工夫している	
具体的な体制と方略(	
研修中に定期的に行う教育	
当該施設で行う勉強会・カンファレンス・カルテチェック等の教育機会	
( 常勤医師が3名おり、適宜カンファレンス、カルテチェックを行っている。 )	
他の施設で行う教育・研修機会	
(	)
他のプログラムに参加される場合は以下の欄を記載すること	
   本プログラム以外の参加プログラム数 (	
プログラム名(	
プログラム名(	
プログラム名(	
/ / / / / / / / / / / / / / / / / / /	

研修施設名	奥多摩町国民健康保険 奥多摩病院
診療科名	(内科)
	※病院で研修を行う場合、研修を行う主たる診療科を記載してください。
施設情報	■診療所  □病院
/ 心記▼1月 千以	施設が病院のとき → 病院病床数 ( 43 )床 診療科病床数 ( )床

総合診療専門研修Ⅰにおける研修期間	( 12 )カ月		
常勤の認定指導医の配置の有無	■配置あり □配置なし		
	常勤指導医なしの場合		
	□ 都道府県の定めるへき地(8. 研修施設群参照)の指定地域である		
	その場合のサポート体制(		
			)
研修期間の分割	■なし □あり 「ひかね」 - 0.80 - 77 / 4 / 1989 - 0.0		
	「分割あり」の場合、研修期間の分割について	. 具体的に記入して下さい	)
常勤指導医氏名 1	井上 大輔	指導医登録番号	( )
常勤指導医氏名 2		指導医登録番号	( )
常勤指導医氏名3		指導医登録番号	( )
要件(各項目の全てを満たすとき、口を	塗りつぶす (■のように))		
研修の内容			
<ul><li>■外来診療:生活習慣病、患者教育、心</li><li>■訪問診療:在宅ケア、介護施設との連</li></ul>			
■助向診療・任モグア、介護施設との達 ■地域包括ケア:学校医、地域保健活動		<del>.</del> ₱	
施設要件	0-C1-97/F		
後期高齢者診療			
■研修診療科において後期高齢者の診療 	を受け入れている		
│ │ 学童期以下の診療(以下のうち一つを選	<i>\$</i> ;)		
口研修診療科において学童期以下の患者			
□学童期以下の患者は受け入れていない   □学童期以下の患者は受け入れていない			ちらで経験を補完する
□学童期以下の患者は受け入れていないが、近隣の施設において経験を補完する 具体的に、どの施設でどのような頻度で補完するか ( )			
■学童期以下の患者は受け入れておらず	、近隣の施設において経験を補完す	ることができない	,
経験を補完できない理由(	4 A T +		)
学童期以下の患者の診療を経験するた			
<ul><li>( 本プログラムに含まれる他病院で</li><li>■アクセスの担保: 24 時間体制で医療機</li></ul>		11 + L - T 1 . 7	
■アクセスの担保: 24 時間体制で医療領 具体的な体制と方略( 24 時間 365 日本		]をとっている	
■継続的なケア:一定の患者に対して研			
具体的な体制と方略(外来診療、入院			
■包括的なケア:一施設で急性期、慢性		<u> </u>	
具体的な体制と方略(救急診療、外			
■多様なサービスとの連携:必要な医療 具体的な体制と方略( 奥多摩内にある)			る。)
■家族志向型ケア:様々な年齢層を含む		呼の屋原と行うてい	<u> </u>
具体的な状況(	<u> </u>	<del></del>	)
□地域志向型ケア:受診していない地域 具体的な内容と方法(	住氏への集団アノローナを計画的に	美施する	)
■在宅医療:訪問診療の体制をとってい	る。患者の急変、緩和ケアに対応し	ている	,
- それぞれの概ねの頻度 ( 50 件程度			)
診療実績(各項目を満たすとき、□を塗	りつぶす (■のように)) 		
■のベ外来患者数 400名以上/月   □上記の要件を満たさないが、他施設と	の連携で工夫している		
具体的な体制と方略(	の足別でエスしている		)
■のべ訪問診療数 20件以上/月			
口上記の要件を満たさないが、他施設と	の連携で工夫している		
具体的な体制と方略(			
研修中に定期的に行う教育			

当該施設で行う勉強会・カンファレンス ( 他の施設で行う教育・研修機会	・カルテチェック等の教育機会			)
(				)
他のプログラムに参加される場合は以下	の欄を記載すること			
本プログラム以外の参加プログラム数 プログラム名( プログラム名( プログラム名(	( ) ) ) )			
研修施設名	新川すみれクリニック			
診療科名	(内科)			
	   ※病院で研修を行う場合、研修を行う主たる	診療科を記載してください	N <sub>o</sub>	
	┃ ■診療所 □病院			
施設情報	■ B	( ) 庆 診療科病	<b>                                      </b>	)床
   総合診療専門研修 I における研修期間	(3) ) 力月	/ WN BY MATTER	MAX (	<i>/ / / / / / / / / /</i>
常勤の認定指導医の配置の有無	□ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □			
TITED TO ROUTE IN A PART TO THE TOTAL THE TOTAL TO THE TOTAL THE TOTAL TO THE TOTAL	常勤指導医なしの場合			
	□ 都道府県の定めるへき地(8. 研修	8施設群参照)の指定地	域である	
	その場合のサポート体制(			
				)
研修期間の分割	■なし □あり 「分割あり」の場合、研修期間の分割について (	具体的に記入して下さい		)
常勤指導医氏名 1	松田 朝子	指導医登録番号	(	)
常勤指導医氏名 2		指導医登録番号	(	)
常勤指導医氏名 3		指導医登録番号	(	)
要件(各項目の全てを満たすとき、口を	塗りつぶす (■のように))			
研修の内容 ■外来診療:生活習慣病、患者教育、心 ■訪問診療:在宅ケア、介護施設との連 ■地域包括ケア:学校医、地域保健活動	携などを経験し在宅緩和ケアにも従			
施設要件 後期高齢者診療 ■研修診療科において後期高齢者の診療				
学童期以下の診療(以下のうち一つを選口研修診療科において学童期以下の患者口学童期以下の患者は受け入れていない■学童期以下の患者は受け入れていない	の診療を受け入れている が、施設内に研修診療科以外に小児 が、近隣の施設において経験を補完		ちらで経験を補	完する
│ 具体的に、どの施設でどのような頻度 □学童期以下の患者は受け入れておらず 経験を補完できない理由(		ることができない		)
学童期以下の患者の診療を経験するた	めの工夫			•
(		)		
■アクセスの担保:24 時間体制で医療機	機関が患者の健康問題に対応する体制	をとっている		
具体的な体制と方略 ( 24 時間対応のホ・	ットラインを常設している。 )			
■継続的なケア:一定の患者に対して研	修期間中の継続的な診療を提供する			
具体的な体制と方略(慢性期外来を行	<u> </u>			
■包括的なケア:一施設で急性期、慢性 具体的な体制と方略( 非常勤の麻酔				

	が加工分目が修えてクラムの成文と的が大順
	な医療機関、介護・福祉機関などと適切に連携する
	r護ステーションや中小規模の病院との連携を行っている。 )
	を含む同一家族の構成員が受診する
	<ul><li>通じて、企業の従業員だけでなく、その家族へのインフルエンザ予防接種などを行って</li></ul>
いる。)	
	い地域住民への集団アプローチを計画的に実施する こどの民生委員を通じて、地域住民への集団アプローチを行っている。 )
■在宅医療:訪問診療の体制をと	っている。患者の急変、緩和ケアに対応している
	<b>寺間対応のホットラインを常設しており、急変時は臨時往診を行い、場合によっては自宅</b>
での看取りを行っている。臨時	F往診は毎日のようにあり、自宅での看取りは、月2~4名ほどである。 )
診療実績(各項目を満たすとき、	口を塗りつぶす (■のように))
■のベ外来患者数 400 名以上/	
口上記の要件を満たさないが、他	施設との連携で工夫している
具体的な体制と方略(	)
■のべ訪問診療数 20 件以上/月	
口上記の要件を満たさないが、他	施設との連携で工夫している
具体的な体制と方略(	
研修中に定期的に行う教育	
当該施設で行う勉強会・カンファ	レンス・カルテチェック等の教育機会
( 毎朝、症例カンファレンスを	多職種交えて行っている。 )
他の施設で行う教育・研修機会	
( 毎月、杏林大学医学部付属病	院で開催する蘇生講習会に指導者として参加する。)
他のプログラムに参加される場合	は以下の欄を記載すること
本プログラム以外の参加プログラ	ム数 ( 0 )
プログラム名(	)
プログラム名(	)
プログラム名(	)
研修施設名	つきクリニック

研修施設名	さつきクリニック			
診療科名	( 内科 )			
	※病院で研修を行う場合、研修を行	<b>行う主たる診療科を</b> 記	載してください。	
施設情報	■診療所  □病院			
	施設が病院のとき → 病院病床数	( )床 診療科病	床数(  )床	
総合診療専門研修Ⅰにおけ	( 3 )カ月			
る研修期間				
常勤の認定指導医の配置の	■配置あり □配置なし			
有無	常勤指導医なしの場合			
	□ 都道府県の定めるへき地(8.	研修施設群参照) の打	指定地域である	
	その場合のサポート体制(			
				)
研修期間の分割	■なし □あり			
	「分割あり」の場合,研修期間の分割	割について具体的に記	入して下さい	
	(		)	
常勤指導医氏名 1	髙橋 聡	指導医登録番号	(	)
常勤指導医氏名 2	島崎 栄二	指導医登録番号	(	)
常勤指導医氏名3		指導医登録番号	(	)

# 要件(各項目の全てを満たすとき、□を塗りつぶす(■のように))

# 研修の内容

■外来診療:生活習慣病、患者教育、心理社会的問題、認知症を含めた高齢者ケアなど

■訪問診療:在宅ケア、介護施設との連携などを経験し在宅緩和ケアにも従事
■地域包括ケア:学校医、地域保健活動などに参加
施設要件
後期高齢者診療
■研修診療科において後期高齢者の診療を受け入れている
   学童期以下の診療(以下のうち一つを選ぶ)
□団修診療科において学童期以下の患者の診療を受け入れている
□学童期以下の患者は受け入れていないが、施設内に研修診療科以外に小児科外来が存在し、そちらで経験を補完する
■学童期以下の患者は受け入れていないが、近隣の施設において経験を補完する
具体的に、どの施設でどのような頻度で補完するか(
│ □学童期以下の患者は受け入れておらず、近隣の施設において経験を補完することができない │ 経験を補完できない理由( )
学童期以下の患者の診療を経験するための工夫 
(
■アクセスの担保:24 時間体制で医療機関が患者の健康問題に対応する体制をとっている
具体的な体制と方略 ( 24 時間対応のホットラインを常設している。 )
■継続的なケア:一定の患者に対して研修期間中の継続的な診療を提供する
具体的な体制と方略( 慢性期外来を行う。 )
■包括的なケア:一施設で急性期、慢性期、予防・健康増進、緩和ケアなどを幅広く担当
具体的な体制と方略( 非常勤の麻酔科専門医、老年病専門医や産業医と連携して行う。 )
■多様なサービスとの連携:必要な医療機関、介護・福祉機関などと適切に連携する 具体的な体制と方略( 訪問介護ステーションや中小規模の病院との連携を行っている。 )
■家族志向型ケア:様々な年齢層を含む同一家族の構成員が受診する
具体的な状況( 産業医活動を通じて、企業の従業員だけでなく、その家族へのインフルエンザ予防接種などを行って
いる。)
<ul><li>■地域志向型ケア:受診していない地域住民への集団アプローチを計画的に実施する</li><li>具体的な内容と方法( 団地などの民生委員を通じて、地域住民への集団アプローチを行っている。 )</li></ul>
■在宅医療:訪問診療の体制をとっている。患者の急変、緩和ケアに対応している。 )
それぞれの概ねの頻度(24時間対応のホットラインを常設しており、急変時は臨時往診を行い、場合によっては自宅
での看取りを行っている。臨時往診は毎日のようにあり、自宅での看取りは、月2~4名ほどである。 )
診療実績(各項目を満たすとき、□を塗りつぶす(■のように))
■のベ外来患者数 400名以上/月
□上記の要件を満たさないが、他施設との連携で工夫している   □   □   □   □   □   □   □   □   □
具体的な体制と方略(
■のべ訪問診療数 20 件以上/月
│ □上記の要件を満たさないが、他施設との連携で工夫している │ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □
具体的な体制と方略(
研修中に定期的に行う教育
当該施設で行う勉強会・カンファレンス・カルテチェック等の教育機会
(毎朝、症例カンファレンスを多職種交えて行っている。)
他の施設で行う教育・研修機会
( 毎月、杏林大学医学部付属病院で開催する蘇生講習会に指導者として参加する。 ) 
他のプログラムに参加される場合は以下の欄を記載すること
本プログラム以外の参加プログラム数 ( )
プログラム名(
│ プログラム名( │ プログラム名(
※研修施設が2箇所以上にわたる場合、上記内容をコピー&ペーストして記載すること

研修施設名	檜原村国民健康保険檜原診療所
診療科名	( 内科 )
	※病院で研修を行う場合、研修を行う主たる診療科を記載してください。

15-50 l+ 40	■診療所 □病院		
施設情報	施設が病院のとき → 病院病床数	( 43 )床 診療科	<b>↓病床数(   )床</b>
総合診療専門研修Iにおける研修期間	( 12 ) カ月		
常勤の認定指導医の配置の有無	■配置あり 口配置なし 常勤指導医なしの場合	┢·╆·╕╖飛ᆇᄧᄼᇝᄔᅌᅹ	₩ + - 7
	□ 都道府県の定めるへき地(8. 研		<b>攻じめる</b>
	その場合のサポート体制(		)
研修期間の分割	■なし □あり 「分割あり」の場合、研修期間の分割について (	て具体的に記入して下さい	)
常勤指導医氏名 1	田原邦朗	指導医登録番号	( )
常勤指導医氏名 2		指導医登録番号	( )
常勤指導医氏名 3		指導医登録番号	( )
要件(各項目の全てを満たすとき、口を	塗りつぶす (■のように))		
研修の内容 ■外来診療:生活習慣病、患者教育、心 ■訪問診療:在宅ケア、介護施設との連 ■地域包括ケア:学校医、地域保健活動	携などを経験し在宅緩和ケアにも従		
施設要件 後期高齢者診療 ■研修診療科において後期高齢者の診療を受け入れている 学童期以下の診療(以下のうちーつを選ぶ) ■研修診療科において学童期以下の患者の診療を受け入れている □学童期以下の患者は受け入れていないが、施設内に研修診療科以外に小児科外来が存在し、そちらで経験を補完する □学童期以下の患者は受け入れていないが、近隣の施設において経験を補完する 具体的に、どの施設でどのような頻度で補完するか()			
口学童期以下の患者は受け入れておらず 経験を補完できない理由( 学童期以下の患者の診療を経験するた		<b>-ることができない</b>	)
( 本プログラムに含まれる他病院で			
■アクセスの担保:24時間体制で医療機		別をとっている	
具体的な体制と方略 ( 24 時間 365 日対 ■継続的なケア:一定の患者に対して研		<u> </u>	
具体的な体制と方略(外来診療、入院		)	
■包括的なケア:一施設で急性期、慢性期、予防・健康増進、緩和ケアなどを幅広く担当			
具体的な体制と方略 ( 救急診療、外来・入院診療に加え、訪問診療も行っている。 ) ■多様なサービスとの連携:必要な医療機関、介護・福祉機関などと適切に連携する			
具体的な体制と方略 ( 奥多摩内にあ	る診療所に派遣制度があり、地域会		る。 )
■家族志向型ケア:様々な年齢層を含む 具体的な状況(	同一家族の構成員が受診する		)
■地域志向型ケア:受診していない地域 具体的な内容と方法 (生活環境や家族 活を送ることができるよう「みまもり	環境等により日常の安否確認が困難	<b>性な一人暮しの高齢者</b> (	の方が自宅で安心して生
■在宅医療:訪問診療の体制をとってい それぞれの概ねの頻度(50件程度			)
診療実績(各項目を満たすとき、口を塗	りつぶす (■のように))		
■のベ外来患者数 400名以上/月 □上記の要件を満たさないが、他施設と 具体的な体制と方略(	の連携で工夫している		)
■のべ訪問診療数 20 件以上/月 □上記の要件を満たさないが、他施設と 具体的な体制と方略(	の連携で工夫している		

研修中に定期的に行う教育		
当該施設で行う勉強会・カンファレンス ( 他の施設で行う教育・研修機会	・カルテチェック等の教育機会	)
(		)
他のプログラムに参加される場合は以下	の欄を記載すること	
本プログラム以外の参加プログラム数 プログラム名 ( プログラム名 ( プログラム名 (	( ) ) ) )	

# 総合診療専門研修Ⅱ

# 総合診療専門研修Ⅱの施設一覧

都道府県 コード	医療機関 コード	へき地・離島、被災地 (該当する場合はチェック)	施設名	基幹施設・ 連携施設の別
13	3619285	□へき地・離島 □被災地	杏林大学医学部付属病院	■基幹 □連携
		□へき地・離島 □被災地		□基幹 □連携
		□へき地・離島 □被災地		□基幹 □連携
		□へき地・離島 □被災地		□基幹 □連携

### 総合診療専門研修Ⅱを行う施設ごとの詳細

研修施設名	杏林大学医学部付属病院			
診療科名	(救急総合診療科)			
	※病院で研修を行う場合、研修を行う主たる	診療科を記載してください	10	
施設情報	病院病床数(1153)床 診療科病	病床数(24)床		
総合診療専門研修Ⅱにおける研修期間	(12) カ月			
常勤指導医の有無	□なし ■あり			
	常勤指導医なしの場合			
	□ へき地・離島であると都道府県に	より法的に指定されてい	<b>いる地区の施設で</b>	ある
	その場合のサポート体制(			
			)	
研修期間の分割	■なし 口あり			
	「分割あり」の場合,研修期間の分割について   <i>(</i>	具体的に記入して下さい		)
	(			)
常勤指導医氏名 1	松田剛明	指導医登録番号	(	)
常勤指導医氏名 2	柴田茂貴	指導医登録番号	(	)
常勤指導医氏名 3	得津敬之	指導医登録番号	(	)
			·	<u></u>

## 要件(各項目の全てを満たすとき、□を塗りつぶす(■のように))

# 研修の内容

- ■病棟診療:病棟は臓器別ではない。主として成人・高齢入院患者や複数の健康問題(心理・社会・倫理的問題を含む)を 抱える患者の包括ケア、緩和ケアなどを経験する。
- ■外来診療:臓器別ではない外来で、救急も含む初診を数多く経験し、複数の健康問題をもつ患者への包括的ケアを経験する

**	루지, 프로 .	ш
Hill	<b>34 PM</b>	и
7HH.		

- ■一般病床ないしは地域包括ケア病床を有する
- ■救急医療を提供している

病棟診療:以下の全てを行っていること

■高齢者(特に虚弱)ケア

具体的な体制と方略(誤嚥性肺炎では早期の嚥下機能評価を行なっている。)

■複数の健康問題を抱える患者への対応

具体的な体制と方略(各専門医とすぐに連携をとれる体制を構築している。)

■必要に応じた専門医との連携

具体的な体制と方略(各専門医とすぐに連携をとれる体制を構築している。)

■心理・社会・倫理的複雑事例への対応

具体的な体制と方略 (MSW とすぐに連携をとれる体制を構築している。)

■癌・非癌患者の緩和ケア

具体的な体制と方略(緩和ケア研修会の受講を積極的に行なっている)

■退院支援と地域連携機能の提供

具体的な体制と方略 (新川すみれクリニックやさつきクリニックと連携し、退院後もスムーズな往診が出来るよう対応 している。)

■在宅患者の入院時対応

具体的な体制(新川すみれクリニックやさつきクリニック、介護タクシー業者、当院高齢診療科と連携し、在宅患者が スムーズに入院できる体制を構築している。)

**外来診療**:以下の診療全てを行っていること

■救急外来及び初診外来

具体的な体制と方略(全ての初診患者や救急患者を、時間を問わず診察している。)

■臓器別ではない外来で幅広く多くの初診患者

具体的な体制と方略(全ての患者へのファーストタッチを救急総合診療科が行なっている。)

■よくある症候と疾患

具体的な体制と方略(毎週のカンファレンスで専攻医がよくある症候や疾患に関して資料を作成し勉強会を行なっている。)

■臨床推論・EBM

具体的な体制と方略(臨床推論に則った症例検討会を毎月開催している。また、症例で生じた臨床的疑問をもとに EBM ジャーナルクラブを毎月開催している。)

■複数の健康問題への包括的なケア

具体的な体制と方略(複数の健康問題が多い患者には総合診療外来もしくは新川すみれクリニックやさつきクリニック とで積極的にフォローするようしている。)

■診断困難患者への対応

具体的な体制と方略(診断目的の入院もしくは、外来フォローを積極的にしている。)

### 診療実績(各項目を満たすとき、□を塗りつぶす(■のように))

- ■当該診療科におけるのベ外来患者数 200 名以上/月
- □上記の要件を満たさないが、他施設との連携で工夫している 具体的な体制と方略(

■当該診療科における入院患者総数 20 件以上/月

□上記の要件を満たさないが、他施設との連携で工夫している

具体的な体制と方略()

### 研修中に定期的に行う教育

当該施設で行う勉強会・カンファレンス・カルテチェック等の教育機会

(毎週火曜日に消化器科カンファレンス、毎週水曜日に放射線科カンファレンス、毎週木曜日に症例検討会・EBM ジャーナルクラブ・M&M カンファレンス、毎週金曜日に感染症カンファレンスを行なっている。)

他の施設で行う教育・研修機会

(ALSO・JATEC・ACLS・PALS などのシュミレーション講習会に積極的に参加してもらい、その補助も行なっている。)

### 他のプログラムに参加される場合は以下の欄を記載すること

本プログラム以外の参加プログラム数	(0)
プログラム名(	)
プログラム名(	)
プログラム名(	)

領域別研修:内科	ŀ						
研修施設名	関東労災	病院		都道府県コード	14	医療機関コード 5200019	
領域別研修 (内科)	における研	肝修期間	( 6 )	カ月		·	
指導医氏名		小西 竜太					
有する認定医・専門 ※内科に関するもの	]医資格	総合内科専門図	<u>Ē</u>				
要件(各項目を満た	-すとき、C	]を塗りつぶす	(■のよう	に))			
研修の内容 ■病棟診療:病棟で	での主治医と	こして主に内科疾	患の急性	期患者の診療を	幅広く経	験する	
施設要件 ■内科専門研修プロ ■基幹施設 口連 ■内科学会の認定す	連携施設 [	口特別連携施設	∵おり、J-	OSLER(専攻医登	・ 録評価シ	·ステム)を使用できる	
診療実績(各項目を	-満たすとき	き、口を塗りつる	(■の	ように))			
■当該診療科におけ □上記の要件を満た 具体的な体制と方略	さないが、			ている )			
他のプログラムに参	≽加される場	<b>湯合は以下の欄を</b>	記載する	こと			
本プログラム以外の プログラム名 ( 関 プログラム名 ( プログラム名 (				1 )			
領域別研修·内科							
領域別研修:内科							
<b>領域別研修:内科</b> 研修施設名	練馬光が	丘病院		都道府県コード	13	医療機関コード 2070951	
	練馬光が		( 6 )		13	医療機関コード 2070951	
研修施設名	練馬光が		( 6 )		13	医療機関コード 2070951	
研修施設名 領域別研修(内科)	練馬光が.	肝修期間			13	医療機関コード 2070951	
研修施設名 領域別研修(内科) 指導医氏名 有する認定医・専門	練馬光が における研	所修期間 光定 誠 総合内科専門图	Ē	力月	13	医療機関コード 2070951	
研修施設名 領域別研修(内科) 指導医氏名 有する認定医・専門 ※内科に関するもの	練馬光が. における研 ]医資格 - すとき、[	所修期間 光定 誠 総合内科専門区 ]を塗りつぶす	Ē (■のよう	カ月 (こ))			
研修施設名 領域別研修(内科) 指導医氏名 有する認定医・専門 ※内科に関するもの 要件(各項目を満た 研修の内容 ■病棟診療:病棟で 施設要件 □内科専門研修プロ □基幹施設 □連	練馬光が. における研 所医資格 こすとき、 C この主治医と は グラムに 参 直携施設 C	所修期間 光定 誠 総合内科専門図 ]を塗りつぶす こして主に内科疾 が加している □特別連携施設	E (■のよう E患の急性	カ月(こ))	幅広く経		
研修施設名 領域別研修(内科) 指導医氏名 有する認定医・専門 ※内科に関するもの 要件(各項目を満た 研修の内容 ■病棟診療:病棟で 施設要件 □内科専門研修プロ □基幹施設 □連	練馬光が における研 医資格 こすとき、こ での主 治医と が が に が に お は に お し で り う し に り う し に り う し り う し り う し り う し り り り り り り り り	所修期間 光定 誠 総合内科専門的 でを塗りつぶす して主に内科疾 が出している では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、	E (■のよう E患の急性 ごおり、J-	カ月 (こ)) 期患者の診療を OSLER (専攻医名	幅広く経	験する	
研修施設名 領域別研修(内科) 指導医氏名 有する認定医・専門 ※内科に関するもの 要件(各項目を満た 研修の内容 ■病棟診療:病棟で 施設要件 □内科学会の認定す	様馬光が、 における研 性 における研 を で で で が が が き さ と き 治 と き 治 た い に い た い た い た い た い た い た い た い た い	所修期間 光定 誠 総合内科専門図 でを塗りつぶす こして主に内科疫 が出している では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、	E (■のよう E患の急性 「おり、J- 、 、 は (■の と /月	に)) 期患者の診療を OSLER (専攻医登 ように))	幅広く経	験する	
研修施設名 領域別研修(内科) 指導医氏名 有する認定を・専門 ※内科に関するもの 要件(各項目を満た 研修の内容 ■病棟変件 □内科学会の認定す 診療実績(各項目を □外科学会の認定す 診療実績の発生 □上記の要件を満た	様 における で で で で で で で で で で が が で で の が が が を き 治 ム 設 導 す に に に に に に に に に に に に に	所修期間 光定 誠 総合内科専門的 でを塗りつぶす に内科技 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、	E (■のよう E患の急性 「おり、」」 「す (■の 上/月 きでエ夫し	カ月 (こ)) 期患者の診療を のSLER (専攻医登 ように)) ている )	幅広く経	験する	

領域別研修:内科			
研修施設名	佼成病院	都道府県コード 13	医療機関コード 1570969

領域別研修(内科)におり	- る研修期間 (6)カ月					
指導医氏名	髙橋信一					
有する認定医・専門医資格 総合内科専門医 (内科に関するもの						
要件(各項目を満たすと	·、□を塗りつぶす (■のように))					
	Bとして主に内科疾患の急性期患者の診療を幅広く経験する					
施設要件 □内科専門研修プログラ』	この一般を					
□基幹施設 ■連携施設	<mark>と □特別連携施設</mark>					
■内科字会の認定する指導	I医が常勤で在籍しており、J-OSLER(専攻医登録評価システム)を使用できる 					
	「とき、□を塗りつぶす (■のように))					
	思患者総数 40 件以上/月 ハが、他施設との連携で工夫している					
具体的な体制と方略(	)					
他のプログラムに参加され	る場合は以下の欄を記載すること					
本プログラム以外の参加: プログラム名(	プログラム数 ( ) ) ) )					
プログラム名(	, )					
プログラム名(	)					
領域別研修:内科						
	大学医学部付属病院 都道府県コード 13 医療機関コード 3619285					
研修施設名 杏林						
研修施設名 杏林 領域別研修(内科)におり 指導医氏名 有する認定医・専門医資料	- る研修期間 (6)カ月 - 久松 理一					
研修施設名 杏林 領域別研修(内科)におり 指導医氏名 有する認定医・専門医資格 ※内科に関するもの	- る研修期間 (6 ) カ月 - 久松 理一					
研修施設名 杏林 領域別研修(内科)におけ 指導医氏名 有する認定医・専門医資格 ※内科に関するもの 要件(各項目を満たすとき <b>研修の内容</b>	- る研修期間 ( 6 ) カ月 - 久松 理一 - 総合内科専門医					
研修施設名 杏林 領域別研修 (内科) におけ 指導医氏名 有する認定医・専門医資格 ※内科に関するもの 要件 (各項目を満たすとる 研修の内容 ■病棟診療:病棟での主流 施設要件	- る研修期間 (6 6 ) カ月 - 久松 理一 総合内科専門医 - 総合内科専門医 - (1 を塗りつぶす (■のように)) - (1 を変りのように) - (1 を変りのなりに) - (1 を変りのように) - (1 を変りのように) - (1 を変りのなりに) -					
研修施設名 杏林 領域別研修(内科)におけ 指導医氏名 有する認定医・専門医資格 ※内科に関するもの 要件(各項目を満たすとる <b>研修の内容</b> ■病棟診療:病棟での主流	- る研修期間 (6 6 ) カ月 - 久松 理一 総合内科専門医 - ※ 、 口を塗りつぶす (■のように)) - 部医として主に内科疾患の急性期患者の診療を幅広く経験する - 本に参加している					
研修施設名 杏林 領域別研修 (内科) におい 指導医氏名 有する認定医・専門医資格 ※内科に関するもの 要件 (各項目を満たすとる 研修の内容 ■ 病棟診療:病棟での主流 施設要件 ■ 内科専門研修 プログラム ■ 基幹施設 □連携施語	- る研修期間 (6 6 ) カ月 - 久松 理一 総合内科専門医 - ※ 、 口を塗りつぶす (■のように)) - 部医として主に内科疾患の急性期患者の診療を幅広く経験する - 本に参加している					
研修施設名 杏林 領域別研修 (内科) におい 指導医氏名 有する認定医・専門医資格 ※内科に関するもの 要件 (各項目を満たすとる 研修の内容 ■ 病棟診療:病棟での主流 施設要件 ■ 内科専門研修 プログラム ■ 基幹施設 □連携施設 □ 内科学会の認定する指導 診療実績 (各項目を満たまた。	- る研修期間 (6 ) カ月 - 久松 理一 総合内科専門医 - 総合内科専門医 - (本) のように)) - (本) のように)) - (本) のように)) - (本) のように) のように) のように) が常勤で在籍しており、J-OSLER(専攻医登録評価システム)を使用できる - (本) のように) )					
研修施設名 杏林 領域別研修 (内科) におい 指導医氏名 有する認定医・専門医資格 ※内科に関するもの 要件 (各項目を満たすとる 研修の内容 ■病棟診療:病棟での主流施設要件 ■内科専門研修 プログラム ■基幹施設 □連携施設 □対学会の認定する指導 診療実績 (各項目を満たる ■当該診療科における入	- る研修期間 (6 ) カ月 - 久松 理一 総合内科専門医 - 総合内科専門医 - (本) のように)) - (本) のように)) - (本) のように)) - (本) のように) のように) のように) が常勤で在籍しており、J-OSLER(専攻医登録評価システム)を使用できる - (本) のように) )					
研修施設名 杏林 領域別研修 (内科) におい 指導医氏名 有する認定医・専門医資格 ※内科に関するもの 要件 (各項目を満たすとる 研修の内容 ■病棟診療:病棟での主流施設要件 ■内科専門研修 プログラム ■基幹施設 □連携施設 □対学会の認定する指導 診療実績 (各項目を満たる ■当該診療科における入	る研修期間 (6 6 ) カ月					
研修施設名 杏林 領域別研修 (内科) におい 指導医氏名 有する認定医・専門医資格 ※内科に関するもの 要件 (各項目を満たすとき 研修の内容 ■病棟診療:病棟での主流 施設要件 ■ 本学会の認定する指導	「					
研修施設名 杏林 領域別研修 (内科) におい 指導医氏名 有する認定医・専門医資格 ※内科に関するもの 要件 (各項目を満たすとき 研修の内容 雨棟での主流 施設要件	「					
研修施設名 杏林 領域別研修 (内科) におい 指導医氏名 有する認定医・専門医資格 ※内科に関するもの 要件 (各項目を満たすとき 研修の内容 雨棟での主流 施設要件	「					

※研修施設が2箇所以上にわたる場合、上記内容をコピー&ペーストして記載すること

領域別研修:小り	<b>尼科</b>		
研修施設名	杏林大学医学部付属病院	都道府県コード 13	医療機関コード 3619285

			別你1 等門研修プログラムの概要と診療美額
領域別研修(小児科)におけ	る研修期間	( 3 )	カ月
<b>化道医丘</b> 夕	H2 E3 E3		有する専門医資格( 小児科専門医 )
指導医氏名	楊 國昌		※小児科に関するもの
要件(各項目を満たすとき、	口を塗りつぶす	(■のよ	うに))
■救急診療:指導医の監督下	で積極的に救急	外来を担	特有の疾患を含む日常的に遭遇する症候や疾患の対応を経験する 当し、軽症、1次救急を中心に経験する し、外来・救急から入院に至る流れと基本的な入院ケアを学ぶ
施設要件 ■小児領域における基本能力 ■小児科常勤医がいる。 (		学、手技	等)が修得できる
診療実績(各項目を満たすと	き、口を塗りつ	ぶす ( <b>■</b> (	のように))
■当該診療科におけるのべ外	来患者数 400	名以上/月	₹
口上記の要件を満たさないが	、他施設との連	携で工夫	している
具体的な体制と方略(	10 4 / 1 100	1 t- == ±15 L	)
他のプログラムに参加される	場合は以下の欄	を記載する	<u>ること</u>
本プログラム以外の参加プロ プログラム名( 杏林大学医		児科専門	
プログラム名( プログラム名(			) )
			ピー&ペーストして記載すること
			iは、その条件(2 ページ 「4 概要 D. ローテーションのスケジュ うな研修を行うのか、別途説明した文書を添付してください。(A4

※小児科研修をカリキュラム制での実施を希望する場合は、その条件(2 ページ 「4 概要 D. ローテーションのスケジュールと期間」参照)を確認したうえで、具体的にどのような研修を行うのか、別途説明した文書を添付してください。(A4 で 1 枚程度、書式自由)文書には、プログラム制では実施できない合理的な理由と、プログラム制と同等の研修経験・指導の質を担保するための工夫に関する記載も含めるようにしてください。

領域別研修:救急	科				
研修施設名	東京ベイ・浦安市川医療	ュンター	都道府県コード 12	医療機関コ	1− F 1911981
		有すん		専門医 )	
指導医氏名	舩越 拓				専従する部署 ( 救急科 )
□研修期間(	6 )カ月				
要件(各項目を満た	すとき、口を塗りつぶす	(■のよ	うに))		
研修の内容					
_ 3741B1A2 734 1 1 1 1 1 1 1	・小児を含む全科の主に軸	経症から「	中等症救急疾患の診療る	と経験する	
施設要件 (下記のし					
	-もしくは救急科専門医指定		* + 14400 (14 5 14)		4000 (11 1 .)
_ 3743B711 31 3E 314	「救急担当として専従する-	70 7,701	7	を件数が年に	こ 1000 件以上)
診療実績(各項目を	:満たすとき、口を塗りつぶ	<b>ぶす</b> (■0	かように))		
■当該診療科におけ	トるのべ救急搬送件数 100	0 件以上	<u>/</u> 年		
口上記の要件を満た	さないが、他施設との連携	表で工夫!	している		
具体的な体制と方略	<b>፭</b> (				)
他のプログラムに参	参加される場合は以下の欄を	記載する	ること		
本プログラム以外 <i>の</i>	)参加プログラム数 (	1	)		
· ·	『京ベイ・浦安市川医療セン	/ター救急	急専門医プログラム )		
プログラム名(			)		
プログラム名(			)		

領域別研修:救急	科	
研修施設名	練馬光が丘病院	都道府県コード 13 医療機関コード 2070951

			別添 1	専門研修フ	『ログラムの概要と診療実績		
		有する	る専門医資格 ( 救急	科専門医 )			
┃ ┃指導医氏名	   光定   誠				専従する部署 ( 救急科 )		
	7-7-2 2						
	<u> </u> 3 )カ月						
	3 / MA						
要件(各項目を満た	すとき、口を塗りつぶす	(■のよう	うに))				
研修の内容							
	・小児を含む全科の主に朝	怪症から「	中等症救急疾患の診療	寮を経験する			
施設要件 (下記のい							
	もしくは救急科専門医指別		*				
	救急担当として専従する-			股送件数が年	こ 1000 件以上)		
Ⅰ 診療実績(各項目を Ⅰ	満たすとき、口を塗りつん	S.す (■0	のように))				
■当該診療科におけ	るのべ救急搬送件数 100	00 件以上.	/年				
口上記の要件を満た	さないが、他施設との連	隽で工夫し	している				
具体的な体制と方略	•				)		
┃ 他のプログラムに参 ┃	加される場合は以下の欄を	を記載する	ること				
本プログラム以外の	参加プログラム数 (		)				
プログラム名(							
プログラム名(							
プログラム名(							
領域別研修:救急	科						
研修施設名	杏林大学医学部付属病院		都道府県コード 13	医療機関	コード 3619285		
		有する	る専門医資格( 救急	科専門医 )			

研修施設名	杏林大学医学部付属病院		都道府県コード 13	医療機関:	コード 3619285		
		有する	る専門医資格( 救急科	専門医 )			
指導医氏名	樽井 武彦				専従する部署	( 救急科 )	
□研修期間 ( 6 )カ月							
要件(各項目を満たすとき、□を塗りつぶす(■のように))							
研修の内容							
■救急診療:外科系・小児を含む全科の主に軽症から中等症救急疾患の診療を経験する							
<b>施設要件</b> (下記のいずれかを満たす)							
■救命救急センターもしくは救急科専門医指定施設							
■救急科専門医等が救急担当として専従する一定の規模の医療機関(救急搬送件数が年に 1000 件以上)							
診療実績(各項目を満たすとき、□を塗りつぶす(■のように))							
■当該診療科におけるのべ救急搬送件数 1000 件以上/年							
□上記の要件を満たさないが、他施設との連携で工夫している							
具体的な体制と方略(							
他のプログラムに参加される場合は以下の欄を記載すること							
本プログラム以外の参加プログラム数 (1)							
プログラム名 ( 杏林大学医学部付属病院救急専門医プログラム )							
プログラム名(							
┃プログラム名(							

※研修施設が2箇所以上にわたる場合、上記内容をコピー&ペーストして記載すること

※救急科研修をカリキュラム制での実施を希望する場合は、その条件(2ページ「4概要 D. ローテーションのスケジュ ールと期間」参照)を確認したうえで、具体的にどのような研修を行うのか、別途説明した文書を添付してください。(A4 で1枚程度、書式自由)文書には、プログラム制では実施できない合理的な理由と、プログラム制と同等の研修経験・指 導の質を担保するための工夫に関する記載も含めるようにしてください。

# その他の領域別診療科

領域別研修:	科		
研修施設名		都道府県コード	医療機関コード

指導医氏名		有する専門医資格(	)	専従する部署(	)			
□研修期間 ( )カ月								
要件(各項目を満たすとき、□を塗りつぶす(■のように))								
研修の内容 □ 総合診療専門研修の経験目標を達成するのに有用な診療を経験する								
<u>施設要件</u> (下記のいずれかを満たす) □ ( ) 領域における基本能力 (診断学、治療学、手技等) が修得できる □ ( ) 科常勤医がいる。 ( ) 名								
※その他の診療科が2箇所以上にわたる場合、上記内容をコピー&ペーストして記載すること								
その他の研修施設(例:臨床疫学などの社会医学の研修や保健・介護・福祉関連の施設等での研修)								
領域・分野:								
研修施設名								
指導にあたる医師名	_	有する資格(	)	専従する部署(	)			
□研修期間 (	)カ月							

□ 研修期間中、該当領域・分野の指導にあたる医師から、適切な指導やサポートを得られる

□ 総合診療専門研修プログラムのカリキュラム内にある研修目標と関連している

要件(各項目を満たすとき、□を塗りつぶす(■のように))

□ 総合診療専門研修のプログラムの理念と合致している

研修の内容

(具体的な関連性:

<sup>□</sup> 研修修了時点で、総合診療専門研修プログラムの関連する研修目標に対応した評価を行うことができる ※研修施設が2箇所以上にわたる場合、上記内容をコピー&ペーストして記載すること